

# フードバンクを活用した食品ロス削減推進 共同研究プロジェクト

研究期間	平成29(2017)年度～令和元(2019)年度
研究メンバー	NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン、NPO法人フードバンク福岡、エフコープ生活協同組合、一般社団法人福岡県フードバンク協議会

**背景** 日本では食べられるにも関わらず廃棄される「食品ロス」は年間612万トン(H29年度)と推計されている。この食品ロスを削減するために国では食品ロス削減プロジェクトを推進し、福岡県においても県内全域の食品関連企業に対してフードバンクへの食品提供の働きかけを行っている。しかし、その受け皿となるフードバンクの体制が弱いために、新規の受入れが難しい状況にある。

**目的** 本プロジェクトでは本県で発生している食品ロスを県内全域で安定的・継続的に削減するためのフードバンクシステムを構築し、食品ロス削減の社会システムの実用化を図ることを目的とする。

## フードバンクとは

品質に問題がないにも関わらず、**市場で流通できなくなった食品**を、企業や個人から**寄贈**していただき、施設や団体、**食べ物に困っている人に無償で配る**活動。

### 環境問題

年間で612万トンもの可食部、未使用の食品が廃棄されている。

### フードバンク

新しい物流の仕組みを作ることで廃棄される食品に新たな命を吹き込みたくさんの人々の命をつなぐ。

### 貧困問題

相対的貧困（所得中央値の50%未満）により食事に困っている。

## フードバンクの現状と課題

### 組織の基盤が弱い

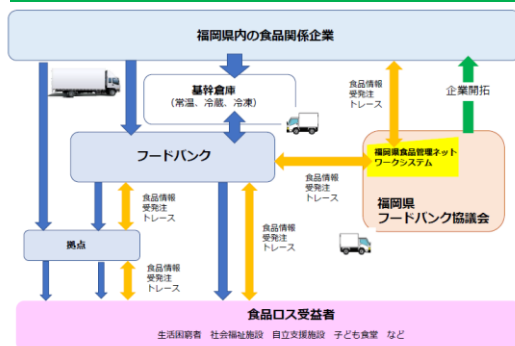
施設・設備 / 食品管理・事業インフラ

ハード（倉庫・車両）とソフト（保管・配送システム）が不十分なため、食品ロスに対応できない

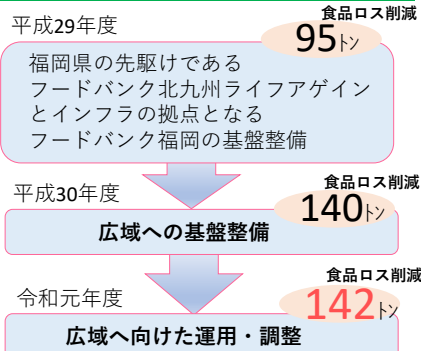
- ①一度に大量発生する食品
- ②冷蔵・冷凍の食品
- ③県内広域で発生する食品
- ④賞味期限が短い食品

食品ロスに対応できない

## 福岡県内を網羅する 広域型フードバンクシステムの構築



## 食品ロス削減量



## フードバンクの基盤整備と機能強化

### (食品保管・配送の基盤整備)

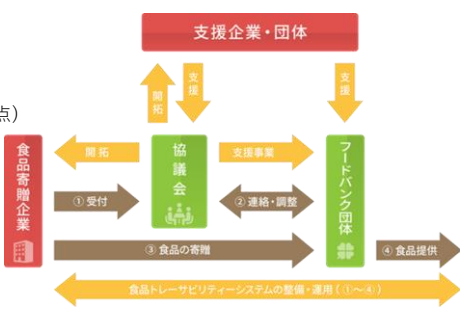
- ・冷凍ストッカー、業務用冷蔵庫、配送車両寄贈
- ・運搬効率を図る手動リフトの活用等
- ・フードバンク福岡サテライト久留米開所（県南・災害からの生活支援）
- ・福岡市東区「下原ベース」開所(全国初商業施設内での拠点)
- ・フードバンク団体への冷凍・冷蔵・常温スペースの常時無償貸与（宗像・西港倉庫）
- ・保冷バッグ、畜冷材無償貸与 等

### (食品管理システムの構築)

- ①共通合意書の見直し
- ②食品品質衛生基準の運用
- ③食品管理業務の標準化



## 平成31年 (一社) 福岡県フードバンク協議会設立



## 持続可能なフードバンク運営体制の構築

### (運営資金の確保)

目標1800万円に対し→1,752.8万円達成

	フードバンク北九州	フードバンク福岡
①企業の寄付金・会員の会費	276.7万円	155.0万円
②支援型自動販売機・寄付付き商品等	24.3万円	2.1万円
③助成金	215.0万円	836.5万円
④ファンディングの活用	190.0万円	53.2万円
合計	706.0万円	1046.8万円



クラウドファンディングであるハッピーバナナプロジェクトホームページ画面



コカ・コーラとの協働事業『寄付型自販機によるSDGs市内普及事業』におけるフードバンク北九州ライフアゲインの寄付型自販機のラッピングデザイン

**今後** 広域フードバンクシステムの構築へ向け、一般社団法人福岡県フードバンク協議会と連携しフードバンク活動が普及していない地域への拠点開拓を進めつつ、福岡県全体を網羅した地産地消型のフードバンクネットワークシステムを構築していく。また、食品の受入量が増すにつれ、温度帯に合わせた食品の保管・運搬についてや法人運営を行っていく上での資金調達などを検討していくことが必要。